

コーラ？はと？モスキート音？ みぢかな話題満載

善ちゃんの
スペシャル
サイエンスショー



↑善ちゃん

1月8日、サイエンス演芸師「善ちゃん」と北沢善一氏のスペシャルサイエンスショーがあり、午前117人、午後159人が観覧しました。善ちゃんの楽しくて面白いショーに、どよめきや歓声、笑いが起こりました。

サイエンスショーは、「善ちゃんの科学ふしぎ発見～音を科学しよう～」。前半は、コーラの缶の飲み口にストローをつけ、ストローを吹くと音が鳴る笛や園芸の支柱として使われるパイプをいろいろな長さで切った物を落として、「はと」を演奏したり、コーラのアルミ缶二つで大きな音を出したりして、身近なものでできることを紹介しました。後半は、最近話題になっている「モスキート音」や「骨伝導」の実験でした。「モスキート音」などの実験は、その音を出し、聞こえたら手を挙げるというものです。参加者も聞こえるかどうか聞き耳を立て、手を挙げていました。

また、「骨伝導」では、ラジカセから流れる音をラジカセにつないだ割りばしをくわえて聞き取るというものです。挑戦者の小学生は、どの子もなかなか聞き取れずに苦労していましたが、最後まであきらめずに挑戦していました。

「もっと長い時間見たかった。」(小4・男児)、「善ちゃんの話と、コーラの缶の音が楽しかった。」(小6・女児)、「モスキート音を初めて聞きました。」(小4・男児)、「骨伝導がとても感動しました。」(40歳代・女性)「音に関する知識のきっかけになりました。」(40歳代・男性)という感想がありました。



↑骨伝導で音が聞こえるか！？

あつという間の2時間 3Dのオモシロワールド とび出す絵

2月5日、最近注目されている3D動画のしくみを学ぶワークショップ『ライブ！3D動画一目と脳が作るオモシロワールド』が行われ、小学生19人が参加しました。講師は、豊田市内中学校教諭、緒方秀充氏。「脳は、2Dのものでも、頭の中の記憶を使って3Dでみようとしていること」、「右目と左目の映像を脳の中で合わせて立体をイメージすること」を「作る」「遊ぶ」の活動を通して分かりやすく教えていただきました。

「目のモデル作り」「ブルテリア・ネッカーキューブの模型」「アナグリフ影絵を使って遊ぶ」など、次から次へと提示される活動に、子どもたちは目を輝かせ意欲的に取り組んでいました。

「2時間があつという間でした。」絵が飛び出てきて楽しかったです。「家でも3Dを映してみたいです。」という子どもたちの感想がありました。



星空を見上げて⑥

大きめの満月 3月20日

まん丸な満月は、いつも同じような大きさで見えています。月の距離がほんの少し近づいたり遠ざかったりしていますので、厳密に言えば見かけの大きさに違いがでます。3月20日の満月は、35万6581kmなので、平均の38万kmよりずっと近く、その見かけの大きさも大きめとなります。肉眼では、その差は良くわからないですが、写真に写して大きさの違いを見比べてみると、意外と見かけの大きさに差があることに気づくことでしょう。



平均38万kmというと、地球(①)30個並べた距離に相当します(③)。今年最も近づくと3月20日は、36.3万kmで②の位置です。ちなみに、40.5kmと最も遠くなる(④)のは、4月2日です。

くわしくはホームページをご覧ください。

URL <http://www.toyota-kagakutaikan.jp>

とよた科学体験館 (産業文化センター内)
〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-25
TEL (0565)37-3007 / FAX (0565)37-3012